

被災地の農業再生のために自分ができそうなこと

- ・被災地の農業再生のために何が必要か

農業再生にあたり必要なことが大きく分けて 2 つあると考えられる。1 つ目はその土地の汚染をどうするかということである。2 つ目はその土地で再び農業がおこなわれるために農家が来てくれるかという問題である。前者に関しては例えば私が将来学者になるとかいうことがあればできることあるだろうが今の段階でできることはそんなになく思われるので後者に絞って考えたい。後者についてもできることは少なそうである。しかし微力ながら力になれることとして被災地で農業をやっていこうと思えるようになるために何ができるか考えたい。

- ・どうすれば被災地で農業をやろうと思わせられるか

農業をするには作ったものが売れなければならない。ありきたりだがまず風評被害をなくすために間違った情報を流さないというのは絶対条件だろう。被災地を乏しめるものだけでなく何の確信もなく福島は大丈夫だということも言うてはいけない。これはその後もしそうではないとわかったら信頼されなくなるからである。一度失った信頼を取り戻すのは容易ではない。ただし、自分が知っていること例えば今回の講義を含めた放射線環境学で学んだことなどは伝えるべきだろう。カリウムでセシウムの吸収を抑えられること、水田に水をためておくことで放射線減衰効果があること、までい工法、凍土を利用した除染などは着実に復興が進んでいるという安心が得られ被災地の農作物を買う人も増えるだろう。また安心して被災地の訪れる人も増えるだろう。

次に講義資料の 11 ページにあるように 2013 年に五月祭で対話集会有ったようだがこういう集會も大切であると思われる。一般の人々に福島現状を伝えられるまたとない機会となるからだ。また、もともと福島で農業してきたわけ

ではないが、新しい農業をしようとしている人が福島でやろうと思ってくれるかもしれない。先ほどの除染の進捗や「ふくしま再生の会」という会があるということ伝えることで人々が福島について考えるより良い機会となるだろう。私は五月祭の運営をする委員会に入っているのだが、来年は震災から 5 年を迎える年であり、もし来年五月祭でこういうイベントがあればサポートできることは多いと思う。弥生キャンパスは本郷キャンパスと陸橋を介して隔たれているが、前回の MFAwards（企画の人気投票）ではその他模擬店・喫茶店部門（クラス模擬店・喫茶店とは区別されている）で 1 位と 3 位が農学部の企画であり人気企画となっている。これは弥生キャンパスには MFAwards の投票所がないことも考えるとすごいことである。また、近年弥生キャンパスにはハチ公の像もきて農学部は人気の場所となっている。私が五月祭で被災地に関するイベントをする場合にできることとしては例えばそのイベントを委員会のおすすめの企画とするように働きかけることができるだろう。もしおすすめの企画となった場合は五月祭のパンフレットの始めの方に載って大々的に宣伝されるとかいうことがある。以上のことから五月祭でイベントを行うことは検討に値することであり、今の私が被災地の農業のために一番できそうなことは五月祭への勧誘であると思われる。